

富良野線連絡会議にJRも出席

# 路線維持へ連携を確認

## サービス向上での協力も検討

# 揺れる鉄路

JR北海道が「単独では維持困難」とした富良野線に  
関し、沿線5市町の連絡  
会議が17日に旭川市内で初  
めて行ったJRも交えた会



利用促進策などを議論したJR富良野線連絡会議

合では、連携して路線維持  
を目指すことを確認した。  
利用実態調査、路線利用P  
Rなど自治体側で可能な取  
り組みを行うほか、今後、  
駅舎管理や利用客へのサー  
ビス向上などの協力も検  
討する。JR北海道旭川支  
社の堀井忠孝任部長は終了  
後「地域と一緒に議論し、  
できるものはしっかり協力  
したい」と述べた。

富良野線の連絡会議は、  
担当課レベルで議論するた  
め2月に設置。3回目の会  
合で、初めてJRも出席し  
た。会議は非公開で、JR  
側は輸送密度や運行本数の  
推移など富良野線の現状を  
説明、事務局の旭川市地域  
振興部によると、自治体側  
からは「今後の収支見直し  
などを具体的に示してほし

い」との意見も出た。  
今後については、担当課  
レベルで行っている連絡会  
議を首長の会合に格上げ  
し、その下に各市町の担当  
者とJR、道で構成する利  
用促進検討部会」を置く規  
約案を事務局側が提案。異  
論はなく、持ち帰り協議す  
ることとした。

会議で確認した利用実態  
のアンケートは、各自治体  
が旭川駅など主要な駅で同  
じ日に一斉に行い、路線の  
利用目的や頻度、バス転換  
への意見などを聞く。今後  
詳細を決めるが、観光の繁  
忙期と通常期に分け年4回  
程度行いたい意向で、まず  
6月中に実施する。また、  
乗車を促すイベント、満足  
など学校行事での利用、沿  
線の高校や大学を巻き込ん  
だワークショップ開催など  
も検討する。

今回の事務レベルの会合  
は6月中旬以降の見直し。  
同部の富岡司次長は「当  
面はあくまで利用促進策に

主眼を置いた協議を行う」  
とし、地元負担などを含め  
議論の場ではないことを強  
調した。(松井伊勢生)

# 上川大雪酒造にきょう免許 23日にも仕込みを開始



「上川」本格醸造へ向け  
て準備中の上川大雪酒造に  
清酒製造免許通知書が18  
日、交付される見通しとな  
った。これを受けて同社は  
23日にも町内の酒蔵「緑  
丘蔵」で仕込みを始める。  
10月末には道産酒米100  
%の日本酒が味わえる見込  
みだ。

「緑丘蔵」を完成させて  
おり、醸造開始には国から  
の許可を待つのみだった。  
同社によると、愛別町産  
などの酒造好適米を約4ト  
ン使用し、約2千升の醸造タン  
ク6基で純米、純米吟醸の  
2種類を製造。仕込み作業  
を6月中旬まで続け、醸造  
設備のチェックも行う。年  
間生産量は60万升を見込  
む。

「上川」本格醸造へ向け  
て準備中の上川大雪酒造に  
清酒製造免許通知書が18  
日、交付される見通しとな  
った。これを受けて同社は  
23日にも町内の酒蔵「緑  
丘蔵」で仕込みを始める。  
10月末には道産酒米100  
%の日本酒が味わえる見込  
みだ。

### 政治メモ

◇社民・豊登氏、道の区で  
選立候補せず 社民党道選  
は17日、次期衆院選の比例代  
表選ブロックに擁立する元小  
学校教諭で党道連副代表の豊  
登子氏(62)旭川市在住